

## 膳所城(石鹿城, 望湖城) (国の重要文化財) (大津市本丸町) (膳所城跡公園)

膳所城（ぜぜじょう）は、現在の滋賀県大津市本丸町にあった城である。

### 概要

膳所城は大津市街の東部に位置し、相模川河口付近にあった膳所崎と呼ばれる琵琶湖に突き出た土地に築かれた水城であり、日本三大湖城の一つに数えられ、また大津城、坂本城、瀬田城と並ぶ「琵琶湖の浮城」の一つである。陸続きの部分に三の丸を配し、二の丸・北の丸・本丸が琵琶湖に突出する梯郭式の縄張りであった。本丸には4重4階の天守が上げられ、水面に映える姿は里謡に「瀬田の唐橋からねぎぼし、水に浮かぶは膳所の城」と謡われていた。

### 沿革

#### 近世

慶長5年（1600年）関ヶ原の戦いに勝利し名実共に天下人となった徳川家康は、翌、慶長6年（1601年）東海道の押さえとして、大津城を廃し膳所崎に城を築かせた。膳所城は江戸城、大坂城、名古屋城など天下普請として江戸幕府が諸大名に号令し築いた城の第1号である。縄張りは城造りの名手と言われた藤堂高虎に計画させた。湖の中に石垣を築き、本丸西隅に4重4階の天守が築かれた。家康がこの地を選んだ理由として、昔より「瀬田の唐橋を征するものは天下を征する」と言われた瀬田の唐橋に近い場所であったからであると言われる。

築城された年に大津城主戸田一西を3万石で入城させここに膳所藩が成立した。以後、譜代大名の居城となった。その子の氏鉄は元和3年（1617年）に摂津国尼崎藩に転封となった。

代わって本多康俊が三河国西尾藩より入城。その子、俊次は元和7年（1621年）再び西尾へ転封となった。代わって、伊勢国長島藩より菅沼定芳が入城し寛永11年（1634年）丹波国亀山藩に転出。下総国佐倉藩より石川忠総が入城、子の憲之は慶安4年（1651年）に伊勢国亀山藩に転封となった。

石川氏の後には再び西尾藩より本多俊次が7万石で入り、13代220年の間、本多氏の居城となり明治維新を迎えた。

寛文2年（1662年）には地震があり建造物が倒壊した。このため俊次は城の大改修を行った。

膳所城は湖沿岸に建造された城であるため、時間を経ると波による浸食に悩まされ続けることとなった。このため絶えず城の補修を余儀なくされ、これが藩の財政を逼迫させる一因となっていた。

#### 近・現代

明治3年（1870年）新政府の早期実現を望む藩士達により、廃城の太政官布告が出された翌日より天守以下の建物の解体・移築が行われた。

現在は完全に陸続きとなった本丸跡は「膳所城跡公園」として整備され、石垣がわずかに残っているほか、門が模擬再建されている。城門は膳所神社（本丸大手門）、篠津神社（北大手門）、鞭崎神社（南大手門）に現存しており、それぞれ国の重要文化財に指定されている<sup>[1]</sup>。なお、高麗門は大阪府泉大津市松之浜町2丁目の「細見記念財団」が所有する地に移築されている。市内の芭蕉会館に本丸隅櫓が移築され現存しているが、大幅に改造されており原形を留めていない。

平成18年（2006年）には民家に移築されていた瀬田口総門番所が取り壊された。また、二の丸跡は現在、膳所浄水場となっている。

Wikipediaによる

